

# 本願寺派スカウトのための 「やくそく」と「おきて」の意味



*Meaning of "Promise" and "Law" for Scout of Hongwanji*



浄土真宗本願寺派  
スカウト指導者会篇



# 目 次

凡 例	1
はじめに ～「やくそく」と「おきて」に対する解釈の姿勢～	2
「やくそく」の意味	6
「おきて」の意味	10
(1)	11
(2)	13
(3)	15
(4)	17
(5)	19
(6)	21
(7)	23
(8)	25
あとがき	27
仏教章の修得に至る経緯	27
仏教章の修得の心得	29
発刊にあたって	30

## 凡 例

1. 本書は、ガールスカウト運動の基本的な精神と生活の規範である「やくそく」と「おきて」の意味について改めて窺い、仏教徒としてどのように受け止めるべきなのかということを整理し理解するための解説書である。
2. 「やくそく」と「おきて」に関する各条項について、以下の処置を施した。
  - ①「やくそく」について、日本連盟の条文は、ボーイスカウトの「ちかい」と同趣旨であると考えられるが、世界連盟の条文と少し異なっているため、「原文（世界連盟の条文）」と「本文（日本連盟の条文）」を併記し、日本連盟の条文にしたがって「解説」を施した。
  - ②「おきて」については、「原文（世界連盟の条文）」が 10 箇条であり、直ちに日本連盟の条文と対応することが難しいので、本書では、日本連盟の記述にしたがって、「本文（日本連盟の条文）」「意味（日本連盟の解説）」、そして、「解説」の順に記した。
  - ③「おきて」に関する世界連盟の条文は、各解説の註記に、関連すると考えられる原文と意味を掲載し、連絡を図れるよう配慮した。尚、「意味」については、日本連盟の解説であるので、イタリック体で表記した。
3. 本書の解説その他のなかで引用した文言については、各条項の註記にその出拠を記した。

## はじめに

### ～「やくそく」と「おきて」に対する解釈の姿勢～

ボーイスカウト運動は、ベーデン・パウエル（Baden-Powell）卿（1857-1941）が、イギリスのブラウンシー島に20名の少年たちを集めてキャンプを行ったことに始まり（1907）、翌年、彼の主著となる"Scouting for Boys"が刊行されると、少年たちから保護者に至るまで、あらゆる世代の人々に絶大な支持を得るようになりました。以来、世界的な規模で急速に拡がり、現在では、その人口は2800万人に達しています。

同じように、ガールスカウトについても、妹のアグネス・ベーデン・パウエル（Agnes Baden-Powell）に活動を託し、その名をガールガイドとして展開していきます。その後、ベーデン・パウエル卿の妻であるオレブ・ベーデン・パウエル（Olave StClair Baden-Powell）によって拡充され、現在では、あらゆる国や地域で、約1000万人のスカウトたちが活動しているのです。

このように宗教や国境の垣根を越えて、世界中の人々に受け入れられた背景には、ご夫妻の少年・少女たちに対する深い愛情と、敬虔なキリスト教徒としての姿勢に対する信頼があると考えられます。それは、ベーデン・パウエル卿が晩年に残した「社会人に贈る最後の言葉」というメッセージの中に、顕著に窺うことができます。

次代の人々の幸福のためにキリスト教精神で平和と人類の幸

福のために尽されたいのである。80余年のわが人生を顧みて、人生の短りしことと、政治的戦争の無価値を現実を知るのである。最も貴重なることは、他の人々の生命を尊重し幸福にすることである<sup>①</sup>。

と述べています。これらの言葉から、キリスト教の教えを通じて、社会に貢献することのできる慈愛に満ちた人間社会の実現をめざしていたことが窺えます。その目的は、他の宗教を否定し、キリスト教圏の拡大をめざすものではありません。スカウト運動は、宗教や国境の垣根を超えた、すべての人々の幸せを願ったものです。そうでなければ、今日あるような世界的な運動にはならなかったでしょう。そして、このようなスカウト運動の基本的な精神と生活の規範を示したものが、「やくそく」と「おきて」です。

昨今、無宗教であることが好ましいとする考え方もありますが、これではスカウト運動の礎となっている厚い信仰心を軽視した考え方となってしまいます。敬虔なキリスト教徒として、あらゆる人々の幸福を願い、その生涯を献げている姿勢に学ばなければなりません<sup>②</sup>。

それは、ご夫妻が、キリスト教との出会いを契機として、スカウト運動に臨んだように、私たちは仏教の教えを縁として、同じ目標、すなわち、社会に貢献することのできる慈愛に満ちた人間社会の実現に向かって、スカウト運動に臨んでいくということです。したがって、私たちは、スカウト運動の基本的な精神と生活の規範で

ある「やくそく」と「おきて」の意味について改めて窺い、仏教徒としてどのように受け止めるべきなのかということを整理し理解する必要があります<sup>③</sup>。

スカウト運動は、指導者をはじめ、すべてのスカウトを、宗教的な回心<sup>④</sup>へと導く「架け橋<sup>⑤</sup>」となるものであり、宗教的な情操のなかで、「やくそく」と「おきて」の意味を考えるとすることは、社会に貢献することのできる慈愛に満ちた人間社会の実現をめざすものであるといえます。

## 【註 記】

- ① 「バーデン・ポーエル伝 (Baden-Powell THE TWO LIVES OF A HERO by William Hillcourt with Olave Lady Baden-Powell) 』村山 有訳 (財団法人ボーイスカウト日本連盟発行) 247頁。
- ② 「日本連盟規定集」第1章「一般原則」1-21「信仰の奨励」には、「本連盟は、本運動に参加する者が明確な信仰をもつことを奨励する」(36頁)とあります。また、『指導者のための宗教ハンドブック』(財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)には、次のように記されています。「〈ちかい〉と〈おきて〉の理解と実践は、創始者の設定した根本原理(神、宗教に対する義務。スカウトのちかいとおきての研究と遵守)にもとづいて行われなかったならば、自己流になってしまっただけで純正ではなくなります。スカウトの指導者の中には宗教の問題に対してあまり関心を示さず、また宗教のことがわからないために避けて通る人がいますが、スカウト教育の鍵の一つが、宗教を基盤とした「人格づくり」とされているならば、これは大きな問題です。まず、指導者自身が明確な信仰をもたなければ、スカウトに信仰の奨励をすることができないのは当然ですし、少なくとも自ら進んで明確な信仰を求める努力を惜しんではならないことはいうまでもありません」(3頁)。

- ③ スカウトの「やくそく」と「おきて」に関する解釈の仕方について、次のような点で注意が必要であると考えます。まず、バーデン・パウエル卿が提唱した「ちかい」と「おきて」は、汎用性の高い普遍的な内容をそなえています。しかしながら、その礎はキリスト教の精神に基づいていますので、不用意に浄土真宗の教義をあてはめて解釈すると、誤った教義理解を促してしまいます。また、浄土真宗は本願他力の教えですから、その他の教義によって解釈することも、浄土真宗の教えと齟齬を来す可能性があります。宗教的な違いを超えて、「ちかい」と「おきて」の普遍性を重視し、専門的な用語を用いず、平易な言葉で解釈するといった方法を取ることが望ましいと考えます。
- ④ 「回心」を「かいしん」と読むと、「罪を犯したものが、その罪を悔い改めて更生を誓う」という意味になりますが、ここでは「えしん」と読み、「自己の不信の心に気付いて、宗教の世界に向かって心が開かれること」を意味しています。
- ⑤ 「指導者のための宗教ハンドブック」（財団法人ボーイスカウト日本連盟発行）「第五章 信仰を奨励する方法」に「橋わたし」という表現で記されています（47頁）。
- ⑥ 「第3回国際スカウト会議の決議文」（1924年）には、次のように記されています。「本運動は、国内の組織を通して各国に有為で健康な国民を育成することを目的とするという点で国家的である。本運動は、スカウトの同志愛に国家の障壁を認めないという点で国際的である。本運動は、あらゆる国、階級、宗教に属するスカウトの間に、差別のない兄弟愛を主張する点で普遍的である。スカウト運動は、個人の信仰を弱めるものではなく、反対に強化するものである。スカウトのおきては、スカウトが真に誠実に信仰を実践することを要求し、本運動の方針として宗派の異なるスカウトの混じっている集会での宗派的な宣伝を禁止する」。



# 「やくそく」の意味



*On my honour, I promise that I will do my best:*

*1. To do my duty to God and the King*

*or*

*God and my country;*

*2. To help other people at all times;*

*3. To obey the Guide Law.*



## 【原文】

*On my honour, I promise that I will do my best:*

*To do my duty to God and the King (Or God and my country) ;*

*To help other people at all times;*

*To obey the Guide Law<sup>①</sup>*

## 【本文】

私は、仏(神)に対するつとめを行い、

地域と国と世界への責任を果たし、

人に役立つことを心がけ、ガールスカウトのおきてを守ります。<sup>②</sup>

## 【解説】

すべての人々に信頼されるスカウトとなるように、いつも自らの姿を振り返って、「おきて<sup>③</sup>」を実行するという「やくそく」を表したものです。

私たちは、常に、あらゆる人々を等しく包み込むという仏<sup>④</sup>のお心を鏡として、自らの心を顧みるということを忘れてはなりません。そして、自らの心を顧みるという謙虚な姿勢を貫いて活動しているスカウトは、自然に周囲の人々から信頼を得るようになるでしょう<sup>⑤</sup>。

私たちは、家族や多くの人々に支えられ、この私を育てている故郷のなかで生きています。ですから、数多くの人々や故郷への思いを忘れないようにして、スカウトとしての「おきて」を守らなければなり



ません。

そして、あらゆる人々を等しく包み込むという仏のお心に触れたとき、自らの心の狭さを知り、はじめて慈愛に満ちた世界の実現を願い、私を含むすべての幸せについて考え、自らが果たすべきこと（おきて）を理解して、行動することができるでしょう<sup>⑦</sup>。

## 【註記】

- ① WAGGGS-the World Association of Girl Guides and Girl Scouts 条文

<http://www.wagggsworld.org/en/about/guidingscouting>

なお、原文の意について、『ガールガイド・ガールスカウト運動-挑戦し続ける運動-』には、「私は名誉にかけて、神と国王へのつとめを行い(神と国へのつとめを行い)、いつも他の人々を助け、ガイドのおきてに従うことに最善を尽くすことを約束します」(2.基本原則-理想と精神14頁)とあります。このうち、スカウトの名誉とは、あらゆる人々を等しく包み込むという仏のお心を鏡として、自らを顧みるという謙虚な姿勢を貫いて活動しているスカウトに、自然にそなわってくる周囲の人々からの信頼であるといえるでしょう。

- ② 公益社団法人ガールスカウト日本連盟条文

<http://www.girlscout.or.jp/welcome/rule/>

- ③ ガールスカウトの「やくそく」と「おきて」は、第21回世界会議で承認された基本理念を含んで各国が定めるようになっています。『ガールガイド・ガールスカウト運動-挑戦し続ける運動-』には、次のように説明されています。

「やくそく」については、「i.神に対するつとめの本質は、神または創造主に対する信仰を探究する必要性を認め、人間よりもなお高いところにある力や、至高の精神的道義の存在を認めることである(神に対するつとめの本質には、世界連盟に加入している人々のさまざまな信仰すべてが含まれます)。i.国に対するつとめの本質は、私たちが住んでいる地域社会に対する責任という概念を認めることである(国に対するつとめの本質は、自分が住んでいる地域の一員としての、個人の責任を考慮に入れることです)。ii.奉仕の本質は、他の人への役立ちの実践を受け入れるということである(奉仕の本質には、相互援助計画によるプロジェクトや他

団体との協力、発達した通信手段によるアイデアの交換や人員の交流も含まれる)」とあります。

また、「おきて」については、次のように説明されています。「〈おきて〉の本質には、次のことが含まれる。i.他の人々と人類全体に対するつとめ、ii.自己訓練、iii.生命あるものすべてを大切にすること。〈おきて〉の本質は、近年になって浮上してきた諸問題に対する世界連盟の回答ともいえるものです。今日では“生命あるものすべてを大切にすること”には、人間の生命に関するあらゆること、例えば、環境問題、薬物乱用、性的な責任（性に関する問題について自分の行動に責任をもつこと）なども含まれる」とあります。

- ④ 梵語ブッダ(buddha)の訛音の音写。覚者と漢訳し、「ほとけ」と和訳する。自ら真理をさとり、他をさとらしめ、さとりのはたらきが完全に窮まり満ちた者のこと。（『浄土真宗聖典七祖篇（註釈版）』1371頁）
- ⑤ ベーデン・パウエル卿が、キリスト教との出会いを契機として、スカウト運動に臨んだように、私たちは、仏教の教えを縁として、同じ目標、すなわち、社会に貢献することのできる慈愛に満ちた人間社会の実現に向かって、スカウト運動に臨まなければなりません。このような姿勢に対して、世界のあらゆる人々から、厚い信頼が寄せられると考えます。
- ⑥ ベーデン・パウエル卿は、“*Scouting for Boys*” by Baden-Powell（昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行）の中で、「世界のすべての人の友」と題し、次のように記しています。

「スカウトは自分の周りにいる人だけの友だちだけではなく、〈世界のすべての人の友〉だということを忘れてはいけない。友だち同士は戦いはしない。私たちが海を越えた隣国の人たちと友だちになり、相手も私たちに友情をもっていれば、戦争をする必要はないのだ。これこそ、将来の戦争を防ぎ、平和を永続させるための何よりの手段である」（404頁）。

- ⑦ ベーデン・パウエル卿は、“*Scouting for Boys*” by Baden-Powell（昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行）の「スカウトのおきて」の中で、「スカウトは、すべての人の友であり、どの国、階級、宗派に属するスカウトとも兄弟である」（vi頁）と記しています。

また、「スカウティングの世界兄弟愛運動」と題して、次のように記しています。「これは平和のために決定的で広範囲な影響を世界中に及ぼすだろう。だから、あらゆる国のスカウトの間に友情を持たせ、世界に平和と幸福をもたらし、人々の心に善意を育てることに、私たちは最善を尽くすことを誓い合おうではないか」（407頁）。

# 「おきて」の意味



1. A Guide's honour is to be trusted.
2. A Guide is loyal.
3. A Guide's duty is to be useful and to help others.
4. A Guide is a friend to all and a sister to every other Guide.
5. A Guide is courteous.
6. A Guide is a friend to animals.
7. A Guide obeys orders.
8. A Guide smiles and sings under all difficulties.
9. A Guide is thrifty.
10. A Guide is pure in thought, in word and in deed.



## 【 1 】

私はいつも明るく、勇気もちます。<sup>①</sup>

### 【意 味】

どんなにむずかしく、たいへんなことに出あっても、いつも明るく活発にふるまい、進んで物事に取り組む姿勢を表します。<sup>②</sup>

### 【解 説】

スカウトは、本当に大切なことに気付き、誘惑に負けず、困難にあっても、ゆるぎなく、それを実践していくように心がけるといことです。スカウトは、考え方も言葉も行いも清潔で、みだらなことを考えたり、したりする誘惑に負けないという強い意志をもたなければなりません。ベーデン・パウエル卿は、「不屈の精神」<sup>③</sup>ということについて、次のように述べています。

困難なことに出くわすと、気が挫けたり、必要もないのに、早くからくよくよして、恐れ心配する人が少なくないものである。彼らは、たちどころに成功しないのを理由に、仕事を断念するが、(中略)人は、成功を欲するならば、最初はつらさを覚悟すべきである。<sup>④</sup>

スカウトにとって「勇気」とは、清潔な考え方と言葉と行いを貫く「不屈の精神」で、困難に立ち向かうということです。



⑤ 仏教には「精進」という言葉がありますが、さまざまな誘惑や困難を乗り越えて、本当に大切なことを求め、ゆるぎない姿勢で、勇敢に実践し続けていかなければなりません。そして、その実践の中で「徳」が養われ、その「徳」が、周囲からの信頼を得、他の人々を助ける活動を実践する力となっていくことでしょう。

### 【註 記】

- ① 関連するガールスカウト世界連盟の条文には、"A Guide smiles and sings under all difficulties"とあります。原文の意について、「ガールガイド・ガールスカウト運動-挑戦し続ける運動-」には、「ガイドはどんな困難にあってもほほえみ、歌います」(2.基本原則-理想と精神15頁)とあります。
- ② 『ガールスカウト活動の基礎』(ガールスカウト日本連盟)10頁。
- ③ "Scouting for Boys" by Baden-Powell (第27版)347頁。
- ④ "Scouting for Boys" by Baden-Powell  
(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)388頁。
- ⑤ 懈怠に対する語。勇猛に勉励して、善を修し悪を止めること。



オーストラリア



バングラデシュ



ブルネイ

## 【 2 】

私はいのちあるものを大切にします<sup>①</sup>。

### 【意 味】

いのちあるものを大切に思い、思いやりの気持ちを持ち、  
同時に自分をかけがえのない存在として大切にすることを表します。<sup>②</sup>

### 【解 説】

スカウトは、常に仏のお心を鏡として、私を育てている多くのもの、そして、人々や故郷への感謝の気持ちを忘れないように心がけねばならないということです<sup>③</sup>。ベーデン・パウエル卿は、スカウト運動の目的について、次のように述べています<sup>④</sup>。

若い人たちの生活のなかに、無私の善意と協力の精神、そして、それらを日々の実践として教えることである。

これらの言葉から、自然の恵みや、すべての人々に対する感謝の気持ちを育て、慈愛に満ちた人間社会の実現をめざしていることが窺えます。そうした感謝の気持ちは、自らの利益を優先することなく、あらゆるものを大切にすることを培うことでしょう。

すべてのものを等しく包み込んでいる仏のお心を思い起しては、自らの心を顧み、感謝の心を忘れないようにしなければなりません。それは、慈愛に満ちた世界の実現という願いとなって、すべての世界の





幸せについて考え、自らが果たすべきこと（おきて）を実践していく力となるでしょう。

## 【註 記】

- ① 関連するガールスカウト世界連盟の条文には、"A Guide is a friend to animals"とあります。原文の意について、『ガールガイド・ガールスカウト運動-挑戦し続ける運動-』には、「ガイドは動物の友達です」(2.基本原則-理想と精神15頁)とあります。
- ② 「ガールスカウト活動の基礎」(ガールスカウト日本連盟)10頁。
- ③ ベーデン・パウエル卿は、"Scouting for Boys" by Baden-Powell (昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)の「宗教」の中で、「神への義務を果たすには、いつも神に感謝したまえ。楽しんだり、面白いゲームをしたり、善行をすることができたりした時は、そのことを、食事の時の感謝のような簡単な言葉でよいから、神に感謝したまえ。(中略)人への義務を果たすには、人の助けになり、人のために物を惜しまず、受けた親切には感謝を忘れず、その感謝の気持ちを相手に伝えるように気をつけたまえ」(353頁)と記しています。
- ④ 「信仰奨励章取得のための手引き」(平成20年5月・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)



キリバス



韓国



マレーシア

### 【 3 】

私はすべての人の友達となり、他のガールスカウトとは姉妹です。<sup>①</sup>

#### 【意 味】

さまざまな人と積極的にかかわること、そして、宗教や言葉、歴史、伝統、習慣などのちがいをこえて、さまざまな人を理解できるように努め、ちがいを受け入れるようにし、さらに国際的な協力をおしまないことを表します。そして、特に世界中のガールスカウトが姉妹のように結ばれていることを分かって行動することを表します。<sup>②</sup>

#### 【解 説】

私たちは、家族や多くの人々に支えられて生きているのであり、一人で生きているのではないということを思い起して、常に、他の人々の抱える問題を自分自身の問題として捉え、ともに考え行動するという思いを忘れてはならないということです。バーデン・パウエル卿は、次のように述べています。

スカウトは、すべての人の友であり、どの国（中略）どの宗派に属するスカウトともきょうだいである。したがって、スカウトが他のスカウトに会ったら、知らない人であっても言葉をかけ、その人のしている仕事を助けるとか、食物を贈るとか、その他、その人の必要としていることをしてやって、できるだけ助けなければならない。<sup>③</sup>



世界には、色々な国や宗教、異なった文化をもつ人々がいます。スカウトは、決して、偏見をもつことなく、一人ひとりの違いを尊重し、これらすべての人々の友達であり、常に周囲の人々のことを考え、助け合って行動するよう心がけねばなりません。

私は、自他の区別をすることなく、あらゆる人々を等しく包み込んでいらっしやいます。このような仏のお心から、私たちは、慈愛に満ちた世界の実現を願い、他の人々と共に、生きていくという姿勢を学ぶことが大切でしょう。

## 【註 記】

- ① 関連するガールスカウト世界連盟の条文には、"A Guide is a friend to all and a sister to every other Guide"とあります。原文の意について、『ガールガイド・ガールスカウト運動-挑戦し続ける運動-』には、「ガイドはみんなの友達で、他のガイドとは姉妹です」(2.基本原則-理想と精神15頁)とあります。
- ② 『ガールスカウト活動の基礎』(ガールスカウト日本連盟)10頁。
- ③ "Scouting for Boys" by Baden-Powell  
(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行) vii頁。



モルディブ



モンゴル



ネパール

## 【 4 】

私は礼儀を正しくします。<sup>①</sup>

### 【意 味】

社会生活において、人、物事、ものへの思いやりや自分自身をりっする心を持ち、はじめをつけることを表します。<sup>②</sup>

### 【解 説】

スカウトは、規則正しい生活をし、清潔な考え方、正しい言葉づかい、正しい行い、そして、感謝の気持ちを忘れないように心がけるといことです。ベーデン・パウエル卿は、次のように述べています。<sup>③</sup>

スカウトは、すべての人（中略）に親切である。そして、自分のした手助けや親切に対して、報酬を求めてはならない。

スカウトは、正しい行動を心がけねばなりません。正しく行動するためには、周囲の人々に対して感謝する心を忘れず、人々を助ける活動を実践するということが大切です。特に、私たちが導き育てている先輩を大切にす気持ちを失ってはならないでしょう。しかし、私たちは知らず知らずの内に、自己中心的になり、配慮を欠いた行動に陥りがちです。

私は、無私の心で、すべてのものを救い取っていらっしゃいます。私たちは、このような仏のお心を鏡として常に自己を顧み、他の人々



を助ける「やくそく」の精神を忘れずに、規律に沿った生活を心がけねばなりません。そうした生活の中で、スカウトとしての「徳」が養われ、周囲からの信頼を得、また、他の人々に対して、正しく接することができるようになるでしょう。

## 【註 記】

- ① 関連するガールスカウト世界連盟の条文には、"A Guide is courteous""A Guide obeys orders"とあります。原文の意について、『ガールガイド・ガールスカウト運動-挑戦し続ける運動-』には、「ガイドは礼儀正しくします」「ガイドはきまりに従います」(2.基本原則-理想と精神15頁)とあります。
- ② 『ガールスカウト活動の基礎』(ガールスカウト日本連盟)11頁。
- ③ "Scouting for Boys" by Baden-Powell  
(昭和50年5月18日改訂版:財団法人ボーイスカウト日本連盟発行) 337頁。



ニュージーランド



パキスタン



カンボジア

## 【 5 】

私は時間と資源を大切に使います。<sup>①</sup>

### 【意味】

私たちを取りまくすべての環境を大切にし、人材・時間・天然資源・金銭など、限りあるものすべてを大切に使うだけでなく、大切なとき、大切なことに役立てることを表します。<sup>②</sup>

### 【解説】

スカウトは、どのような時でも、自らの利益を顧みず、他の人々の助けとなるよう、物心ともに、そなえておくということです。バーデン・パウエル卿は、スカウトにおける「親切」と「寛大」ということについて、次のように述べています。

善行は、例えば、老婦人が荷物を持つのを助けるとか、混雑した道路を横切る子供を導くとか、慈善箱に小銭をいれるとかいう小さなことでよいのだ。<sup>③</sup>

金をためるのが好きで、決してそれを使わない人がいる。儉約は結構なのだが、必要なところに金を出すのも、またよいことだ。（中略）慈善をするのには、金持ちになる必要はない。<sup>④</sup>

私たちは、知らず知らずのうちに、自分に都合の良いようにものご



とを考え、自己の利益だけを追求しています。しかし、私たちは家族や多くの人々に支えられて生きていますから、常に、他の人々のことを考えて、いつでも行動できるように、物心ともに、そなえておかなければなりません。そのためには、スカウトは質素であることを心がけ、蓄えておくことが大切であるということです。

## 【註 記】

- ① 関連するガールスカウト世界連盟の条文には、"A Guide is thrifty"とあります。原文の意について、『ガールガイド・ガールスカウト運動-挑戦し続ける運動-』には、「ガイドは儉約します」(2.基本原則-理想と精神15頁)とあります。
- ② 『ガールスカウト活動の基礎』(ガールスカウト日本連盟)11頁。
- ③ "Scouting for Boys" by Baden-Powell  
(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)329頁。
- ④ "Scouting for Boys" by Baden-Powell  
(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)331頁。



フィリピン



シンガポール



ソロモン諸島

## 【 6 】

私は自分で考え行動します。<sup>①</sup>

### 【意 味】

あらゆることに対して自分の意見を持ち、自分の言葉で表現し、自分で考え、自ら行動するよう目指すことを表します。<sup>②</sup>

### 【解 説】

私たちは、常に、あらゆるものを等しく包み込むという仏のお心を鏡として、相手の立場に立って、考え行動しなければなりません。ベーデン・パウエル卿は、「親切」の意味について、次のように述べています。<sup>③</sup>

善行は、どんな小さいことでもかまわない。(中略)何でもよいから、日々の生活においてよいことをするというルールとして、今日から始める。そして、君たちの一生を終わる日まで、決して忘れないで実行するのだ。

また「仁慈」の意味について、次のように述べています。<sup>④</sup>

普通の好意からしたような極く些細な行為に対しても、世間の人は心付けを<sup>⑤</sup>もらいたがる。スカウトは決して、心付けを出されても受け





取ってはならない。(中略)もし君たちが、いくら位心付けがもらえるだろうとか、その人もまた、君たちにいくら位やればいいたろうとか等と考えるようになったら、もう友好的に働くことはできなくなる。

私たちは、いつも他の人々の助けとなるよう心がけねばなりません。ただし、何かをしてあげているという思いのままでは、他の人々の抱える問題を自分自身の問題として捉えられていません。行いの大小に拘わらず、相手の立場に立って、報酬や見返りを求めない姿勢こそ、スカウトのあるべき姿であるといえるでしょう。

私は、自他の区別をすることなく、すべての人々を救おうとして活動なさっています。このような私の姿から、スカウトとしてのあるべき姿を学ぶことが大切でしょう。

## 【註 記】

- ① 関連するガールスカウト世界連盟の条文には、"A Guide's duty is to be useful and to help others"とあります。原文の意について、『ガールガイド・ガールスカウト運動-挑戦し続ける運動-』には、「ガイドのつとめは役に立ち、他の人々を助けることです」(2.基本原則-理想と精神15頁)とあります。
- ② 『ガールスカウト活動の基礎』(ガールスカウト日本連盟)11頁。
- ③ "Scouting for Boys" by Baden-Powell(第27版)371頁。
- ④ "Scouting for Boys" by Baden-Powell(第27版)373頁。
- ⑤ 本文中の「心付け」は「チップ」のこと。サービス等に対する感謝の気持ちとして差し出す少額の金銭。

## 【 7 】

私は言葉と行いに責任をもちます。<sup>①</sup>

### 【意味】

自分自身の立場を自覚し、言葉や行いに責任を持つことを表します。<sup>②</sup>

### 【解説】

ベーデン・パウエル卿は、「スカウトのおきてとその意味」について、次のように述べています。<sup>③</sup>

スカウトは、考え方も言葉も行いも清潔である。(中略) みだらなことを考えたり、したりする誘惑に負けないということである。

この「みだらなことを考えたり、言ったり、行ったりすることなく、清らかな考え方や言葉を心がけよう」というベーデン・パウエル卿の言葉には、スカウトの身心のあるべき姿が示されています。

仏教における「強さ」や「すこやかさ」は、「大切なことをひるまわず実践していくこと」を表現する言葉ですが、それは、大切なことに気付き、誘惑に負けず、ゆるぎなくそれを実践していく身心のあり方です。スカウトは、このような姿勢で他の人々を助けるよう努めなければなりません。

清潔な考え方や言葉と行いとによって、「徳」は身にそなわってい



きます。また、その「徳」は、ただ身にそなわるだけではなく、周りの人々に対して、恵みを与えていくはたらきともなります。私たちは、仏のお心を鏡として常に自己を顧み、本当に大切なことに気づいて行き、ゆるぎない姿勢で、これを実践していくことが大切です。そして、その実践の中で「徳」が養われ、その「徳」が、周囲からの信頼を得、他の人々を助ける活動を実践する力となっていきます<sup>④</sup>。

## 【註 記】

- ① 関連すると考えられるガールスカウト世界連盟の条文には、"A Guide is pure in thought, in word and in deed"とあります。原文の意について、『ガールガイド・ガールスカウト運動－挑戦し続ける運動－』には、「ガイドは思い、言葉、行いに純潔です」(2.基本原則－理想と精神15頁)とあります。
- ② 『ガールスカウト活動の基礎』(ガールスカウト日本連盟)12頁。
- ③ "Scouting for Boys" by Baden-Powell(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)ix頁。
- ④ 『指導者のための宗教ハンドブック』(財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)には、「慈しみ愛しむことの大切さを思い、他の人々に働きかけますとの願いであり、真理にいきることをちかうことです」と解説されています(64頁)。



スリランカ



台湾



タイ

## 【 8 】

私は誠実であるように努めます<sup>①</sup>。

### 【意 味】

報いを求めず誠意をもって人や物事に対応し、また、ガールスカウトとして「おきて」を守ること、信頼される人になるよう目指すことを表します<sup>②</sup>。

### 【解 説】

誠実とは、人々から信頼されるようになるということで、そのためには、自らが果たすべきこと（おきて）に、誠心誠意、取り組まなければなりません。人々から信頼を失うということや、スカウトとしての名誉を傷つけるということについて、バーデン・パウエル卿は、次のように、厳しく戒めています。

スカウトが、嘘をついたり、名誉にかけてすると信用されているのに命令を正確に実行しなかったりして、自分の名誉を傷つけたら、スカウト章<sup>③</sup>を返し、二度とつけないように命ぜられるかも知れないし、さらにスカウトをやめるように命令されるかも知れない<sup>④</sup>。

スカウトは、相手の立場に立って、自らが果たすべきこと（おきて）を理解し、自らの言動に責任をもって、行動することで、周囲の



人々からの信頼を得るように努めなければなりません。

しかし、私たちは、知らず知らずの内に、自分に都合の良いようにものごとを考えがちです。あらゆる人々を等しく包み込む仏のお心を鏡として、自らの心を顧みるといふ謙虚な姿勢を貫き、活動することが大切です。その信頼に値する誠実な姿が、周囲の人々から称えられることでしょう。

## 【註 記】

- ① 関連するガールスカウト世界連盟の条文には、"A Guide's honour is to be trusted" "A Guide is loyal"とあります。原文の意について、『ガールガイド・ガールスカウト運動－挑戦し続ける運動－』には、「ガイドの名誉は信頼されることです」「ガイドは忠実です」(2.基本原則－理想と精神15頁)とあります。
- ② 『ガールスカウト活動の基礎』(ガールスカウト日本連盟)12頁。
- ③ 「スカウト章」とは「スカウトである証」を指しています。したがって、ガールスカウトにおいては「ガールスカウト世界連盟ピン」を意味します。
- ④ "Scouting for Boys" by Baden-Powell  
(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)vi頁。



フィジー



香港



インド



## あとがき



### ～仏教章の修得に至る経緯～

本願寺派スカウト指導者会では、ボーイスカウトと同じように、ガールスカウトも仏教章の修得を進めています。

本願寺派では、昭和31年に、本願寺派スカウト指導者会が組織されて、昭和35年のボーイスカウト日本連盟年次全国総会において、宗教章の成文化が可決されています。そして、昭和37年には、ボーイスカウト日本連盟として初となる「仏教章（宗教章）」の授与基準が決定されました。このようにして、ボーイスカウトの「仏教章（宗教章）」が制定されていったのです。

本願寺派ガールスカウトとしての歩みは、昭和31年の本願寺派スカウト指導者会の設立の翌年に、2名のガールスカウトのリーダーが参加し、昭和35年には、評議委員として3名の参加がみられます。そして、昭和36年、親鸞聖人700回大遠忌法要を契機に、第一期研修会に参加し、昭和38年に、指導者会のなかに「ガールスカウト部門」が立ち上げられました。そして、いわゆる「本廟会議」を経て、昭和45年に「ガールスカウト委員会」が発足しています。

一方、ガールスカウト日本連盟としての取り組みは、昭和24年に連盟が結成され、昭和27年には、「やくそく」に「仏」という表記を用いることを認めていました。ところが、それが次第に不明瞭なものとなったため、本願寺派ガールスカウト部門（後のガールスカウト委員会）から、改めて明示する必要性を具申しました。このはたらきかけ

を契機として、仏教スカウト連絡協議会の発足となって行くのです。

「やくそく」のなかに「仏」と表記することを日本連盟にはたらしかけるとともに、ボーイスカウトと同じ「宗教章」の制定を提言し、そして、それが「宗教バッジ」「宗教エイド」とは性格の違うものであることも発信し続けていったのです。その結果、平成21年に「宗教に関するバッジの扱い」という通達となって提示され、技能帯への着用が認められるのです。

本願寺派スカウト指導者会は、日本連盟の依頼に応じて、「浄土真宗本願寺派ガールスカウト仏教章」を届け出ると同時に、レンジャーバッジの扱いに準じた着用をすることを日本連盟に報告しています。ガールスカウトの仏教章の認定方法は、ボーイスカウトとは異なり、各教団に任せられています。ボーイスカウトでは、各宗派の承認を受けて、日本連盟が交付しますが、ガールスカウトでは、認定も交付も宗派が行い、それを日本連盟が追認するというかたちをとっているのです。

そして、本願寺派ガールスカウトの仏教章の認定と交付の基準は、昭和31年に指導者会が組織され、翌年からガールスカウトも本願寺派指導者会のメンバーとして共に活動していますように、仏教章修得の目的や内容はボーイスカウトと同じですから、これを踏襲し、今日に至っているのです。

## ～仏教章の修得の心得～

阿弥陀仏の尊前において、「やくそく」をするということは、あらゆることを等しく包み込むという阿弥陀如来のおこころを鏡として、スカウト活動を行うという意をあらわすということです。そして、それは、私自身のものの見方や考え方について、常に振り返るという姿勢を貫くということでもあります。

解説で何度も触れましたように、仏は、すべての人々に対して、慈しみの心から、等しく接しておられます。私たちは、「やくそく」にもとづいた「おきて」の実践を通して、スカウトとしてのあるべき姿を学ばなければならないでしょう。

「おきて」の実践を重ねるスカウトは、部門によって、それぞれの部門のバッジの認定を受けることができます。ただし、仏教章は、バッジとは性格の違うものです。バッジは、社会に貢献するために、自らの技術や知識を磨くもので、それを数多く身につけているということは、それだけ周囲の人々を大切にするという証です。そして、仏教章は、社会に貢献しようとするスカウト自身のものの見方や考え方について、阿弥陀仏の教えを聞いて、常に自らのものの見方や考え方を振り返るというスカウトの姿勢を学んでゆくものです。

ですから、本願寺で行われる中央研修会、もしくは各教区で行われる仏教章研修会で、しっかりと話し合いを行い、「やくそく」と「やくそく」にもとづく「おきて」の実践ということについて、深く理解することが大切であるといえるでしょう。この解説を通して、ひとりでも多くのスカウトが、浄土真宗の教えにであう機縁となることを願っております。



## ❧ 発刊にあたって ❧

浄土真宗本願寺派  
ガールスカウト委員会委員長

内野 悦子

「やくそく」と「おきて」。これは、私たち本願寺派スカウトにとって、スカウティングの中心にある、もっとも大切な指針となるものです。

敬虔なクリスチャンであるベーデン・パウエル卿は、社会に貢献することのできる慈愛に満ちた人間社会の実現をめざして、その生涯を青少年の育成のためのスカウティングに捧げてきました。

その精神は「やくそく」と「おきて」としてまとめられ、それは、国境や宗教の垣根を越える普遍的な内容となっています。

ですから、浄土真宗の教えを聞いているスカウトとして、私たちは、その精神をしっかりと受けとめ、その内容を理解するということが、非常に大切であると思います。

この度、仏教学や真宗学の識者の方々の協力を得て、その思いをまとめることができました。本願寺派スカウトとして活動する時、この冊子に書き記されていることが、皆さんのスカウティングの指針となるよう願っております。

本願寺派スカウトのための  
「やくそく」と「おきて」の意味

---

2013(平成 25)年 9 月 20 日 印刷

2013(平成 25)年 9 月 30 日 発行

編 集 ガールスカウト委員会

協 力 浄土真宗本願寺派総合研究所

発 行 浄土真宗本願寺派スカウト指導者会

〒600-8501

京都市下京区堀川通花屋町下ル

浄土真宗本願寺派

寺院活動支援部〈組織教化担当〉

電話 075(371)5181

FAX 075(351)1211

印 刷 株式会社 アースワーク

---

本書の無断複写・複製・転載を禁じます。

